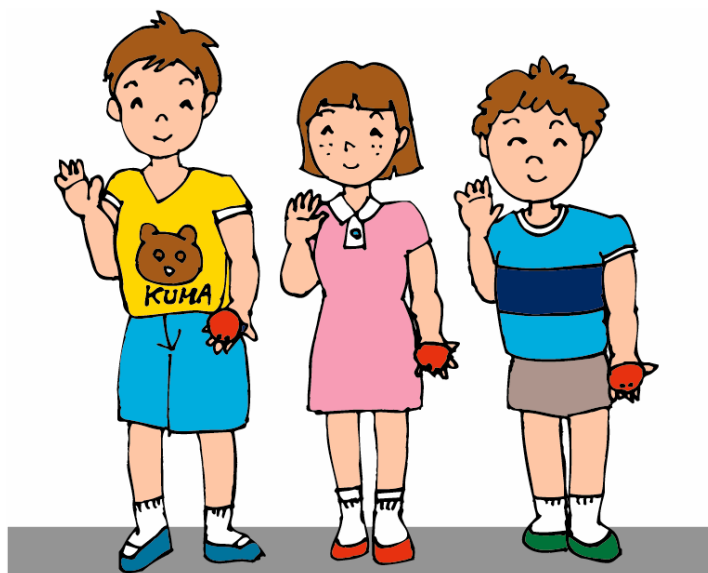


講義と演習

「単元・題材指導計画の作成」



総合教育センター
特別支援教育室

I 単元・題材指導計画作成のポイント

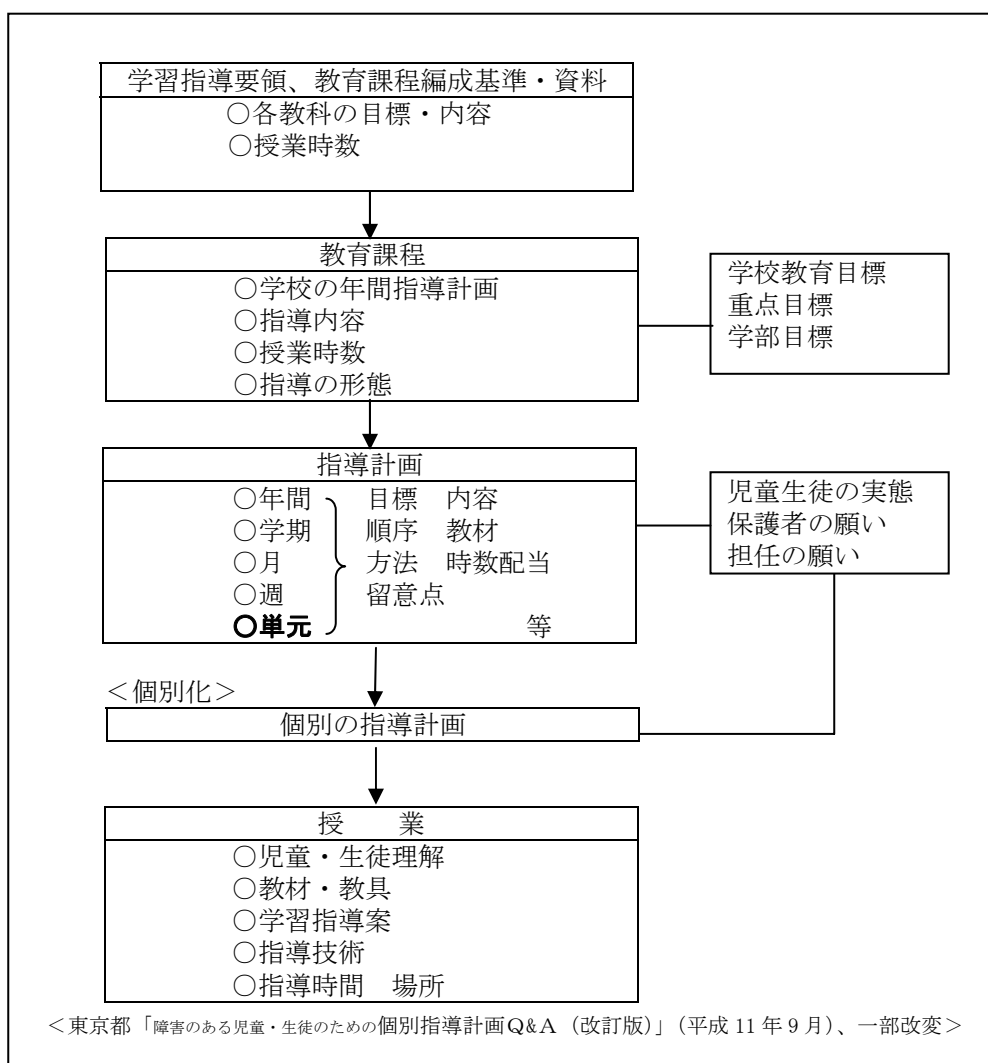
1 指導計画について

学習指導は、教科等の目標達成のために、児童生徒、教材、教師の三者の間に展開される目的的活動であり、精選され、構造化された教材を媒介とした教師の教授活動と児童生徒の学習活動の相互作用によって成立するものであるといえます（授業の三角形モデル）。

学習指導を成立させるためには、年間指導計画に基づき、それぞれの単元に配当した時間数をもとに、教材研究を行ない、授業を設計し、実践し、記録し、評価を行い、修正することが必要になります。それは、Plan（計画）→Do（実践）→Check（評価）→Action（改善）というPDCAサイクルの中で行われる一連の教育活動です。

指導計画の中には、年間指導計画、単元指導計画、個別の指導計画、一単位時間の指導計画等があります。

授業として展開するまでの過程は、一般的には下図のようになります。



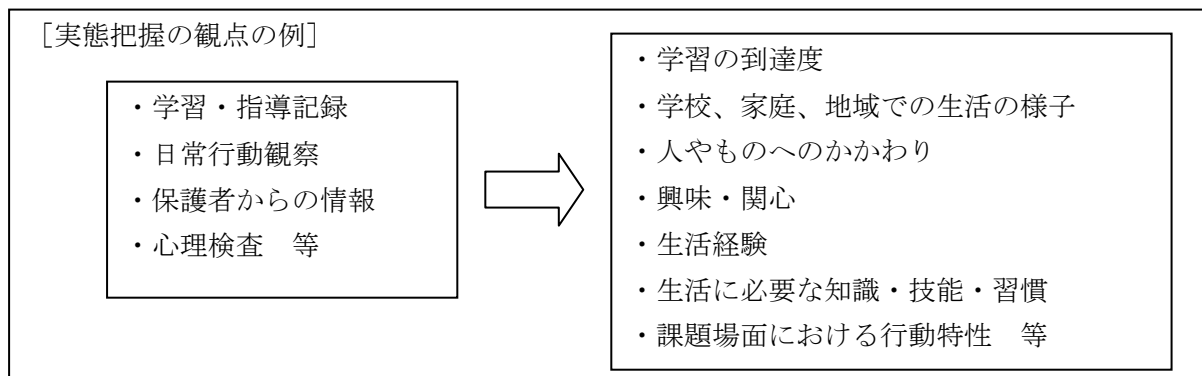
2 単元・題材の指導計画

単元・題材の指導計画は、単元・題材毎に、どのような指導内容を取り上げ、それを配列し、どのような支援を行い、何時間の授業で指導していくかを具体的に示すものです。単元・題材の指導計画の立案に際しては、なぜこの単元・題材を取り上げて指導するのかを、児童生徒の実態や教師の教育観、必要性などの面から明らかにする必要があります。

また、個別の指導計画に基づいて授業計画を立てることは、児童生徒への指導・支援の最適化を図ることです。そのためには、指導目標・指導内容、指導方法、評価について個別化を図っていくことが必要になります。

(1) 実態把握

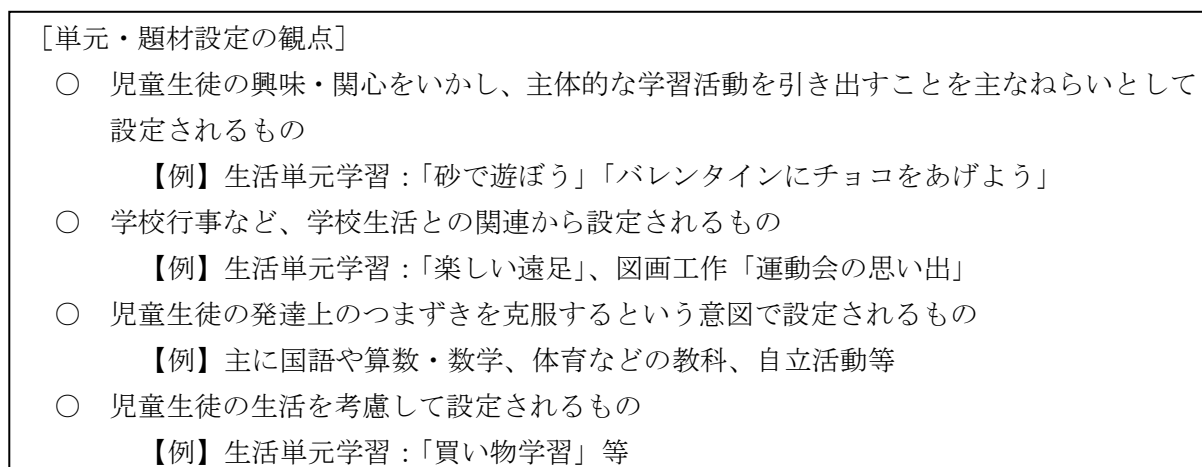
単元・題材の指導計画を作成するためには、児童・生徒の実態を把握しておくことが必要です。児童・生徒の実態把握については、言語、運動、認知などの諸能力、障害の種類や程度、性格や特性等の様々な観点から全体像を把握することが必要です。さらに、単元の指導内容にかかわる実態について詳しく把握する必要があります。



(2) 単元・題材の設定

授業における学習活動は、教材を媒介として成立します。教材とは教育内容を具体化したものであり、多くの場合、「単元・題材」という形で設定されます。

単元・題材設定を行うための観点は下記のとおりです。



(3) 個々の児童・生徒の目標の選定

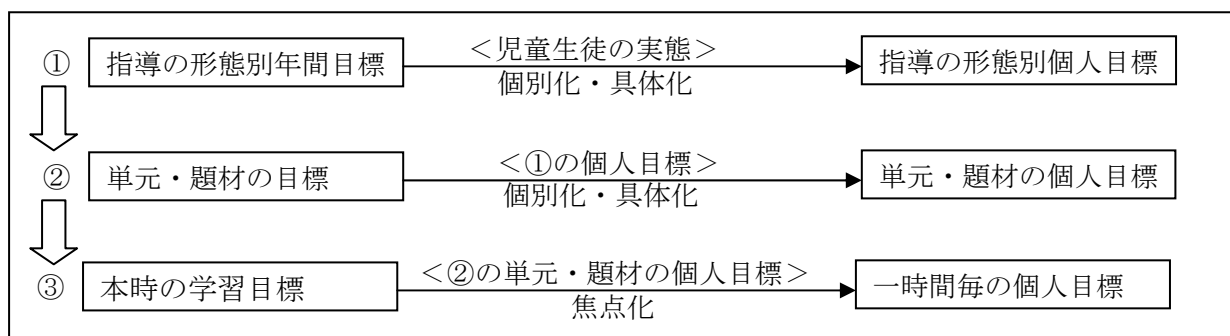
児童生徒の実態や個別の指導計画で設定した指導目標と単元の目標を照らし合わせて、単元・題材レベルにおける個々の児童生徒の目標を具体化していきます。

単元の指導目標設定の観点は、下記に示すとおりです。

[指導目標設定の観点]

- 興味・関心、意欲・態度を形成するという観点から設定される指導目標
- 経験させ、慣れ親しませるという観点から設定される指導目標
- 特定の知識や技能を習得させるという観点から設定される指導目標
- ※ 一人一人の現在できる力を見極めるために、指導段階表を作成すると有効

また、個別の指導計画から指導目標の個別化を図る手順は、次のとおりです。具体的には、①と②の取組を進め、個人目標を明文化し、各単元・題材で身につけさせたい力を明確にしておくことが大切です。③については、日々の授業の中で取り組まれることとなります。



下の例は、単元・題材の個人目標を選定したものです。例1は、小学校1年生の算数の例です。この例では、ごっこ遊びを指導に取り入れ、初歩的な数の概念の理解を図る指導を計画しました。例2は、6月に予定している宿泊学習に向けた生活単元学習の例です。

<例1>

長期目標	○5までの数を数えることができ、数量の理解を進める。	
<短期目標>	↓	<単元・題材にかかわる児童の実態>
・5までの数を数えることができる。		<ul style="list-style-type: none"> ・数詞を用いて数対象を数えることはできるが、時々同じ物を2回数えてしまう。 ・1～10までの数字は読めるが、書けない。
単元名	みんなにくぼろう（5時間）	
単元の目標 (全体目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・物の認知、弁別ができる ・同じ物同士の集合作りができる ・1対1対応がわかり、1つずつ配ることができる 	
個人の目標	・配った人数や配った物の数（5までの数）を数えることができる。	
指導内容 (ステップ)	1-① 正しくポインティングして3までの数を数唱する。 1-② 3までの数を数え、過不足なく配ることができる。 1-③ 正しくポインティングして5までの数を数えることができる。 … (省略)	

<例2>

長期目標	○買い物活動や調理活動において、活動の手順を把握して自分から取り組むとともに、様々な技能を高める。
短期目標 (1学期)	①日程表を手掛かりにして、身近処理の活動に自分から取り組むができる。 ②絵カードや写真カードを見て、その状況や予測される結果を説明できる。
単元名	宿泊学習をしよう (5・6月)
単元の目標 (全体目標)	・集団の中での自分の役割を意識しながら、友達と協力して食事をしたり、お楽しみ会をしたりして宿泊に参加できる。
個人の目標	①日程表を見ながら、次の活動に必要な物を自分で準備したり、整頓したりすることができる。 ②絵カードを見ながら活動の流れを理解し、自分の力で調理活動を進めるとともに、友達の分担の手伝いができる。

(4) 指導内容の選定

指導内容を選定するにあたっては、児童生徒の実態、個々の児童・生徒の目標、各教科等の目標・内容等を考慮し、選定していきます。

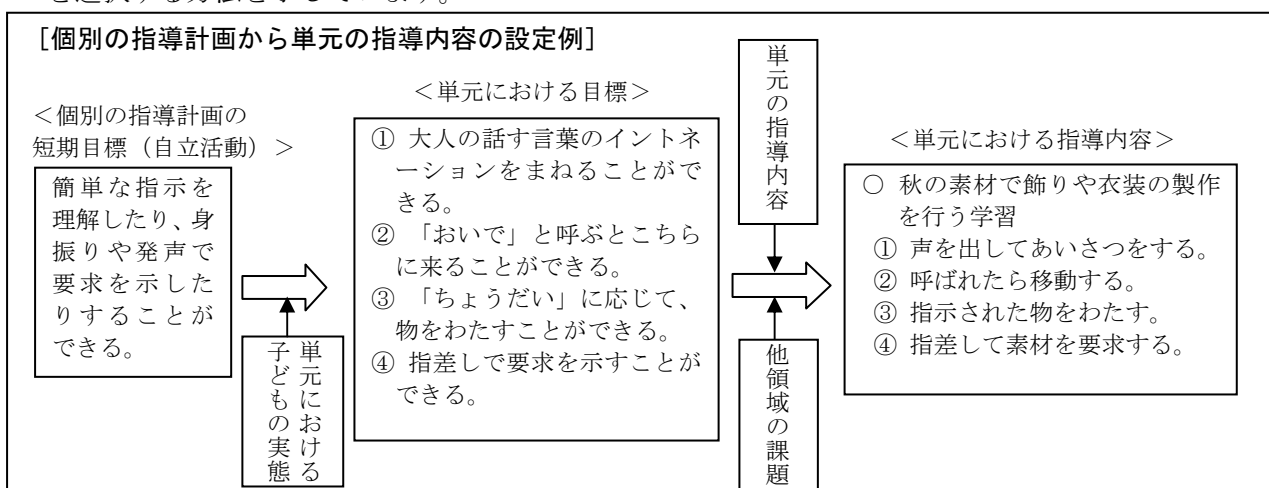
[指導内容選定のための観点]

- ・生活年齢相応の経験の機会となりうる指導内容の選定
学習活動そのものが一つの社会参加の機会となるもの
- ・個別の短期目標を包含できる多様な活動の用意
短期目標を達成しうる指導内容の選定と、それらを単元として編成すること
学習内容の個別化と学習活動の集団化の過程
- ・単元の展開の仕方と規模(実施期間)の検討
児童生徒にとって分かりやすく、身に付きやすい方法を選ぶこと

個別の指導計画から指導目標の個別化を図る手順は、次のとおりです。

①学級全体の指導の形態別の目標を、その児童生徒の実態に合わせて個別化・具体化する。

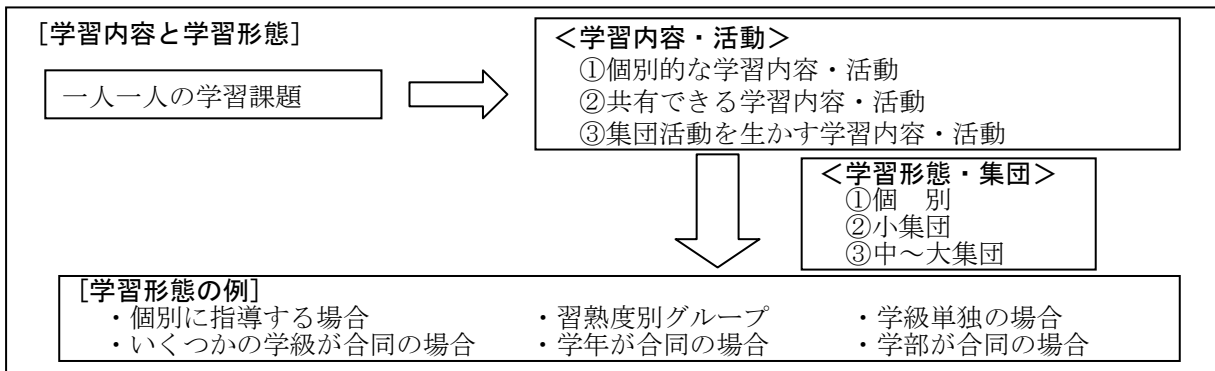
②全体指導計画の下例は、個別の指導計画に示された子どもの目標等や単元における実態に基づき、単元や題材に設定されている指導内容の中から一人一人の実態や目標等に合わせて指導内容を選択する方法を示しています。



(5) 学習形態・集団の構成

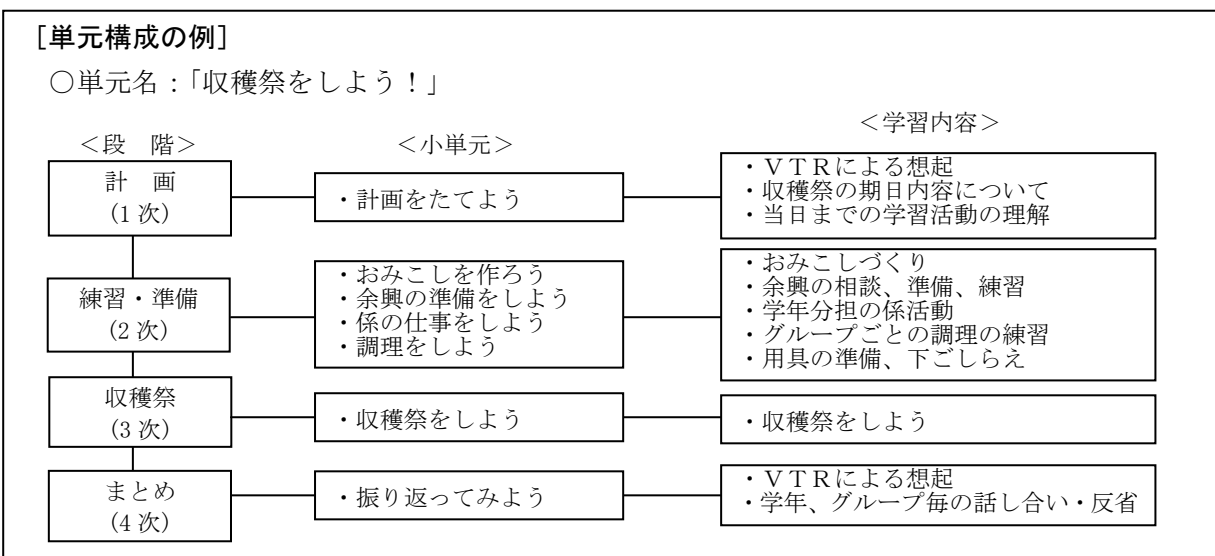
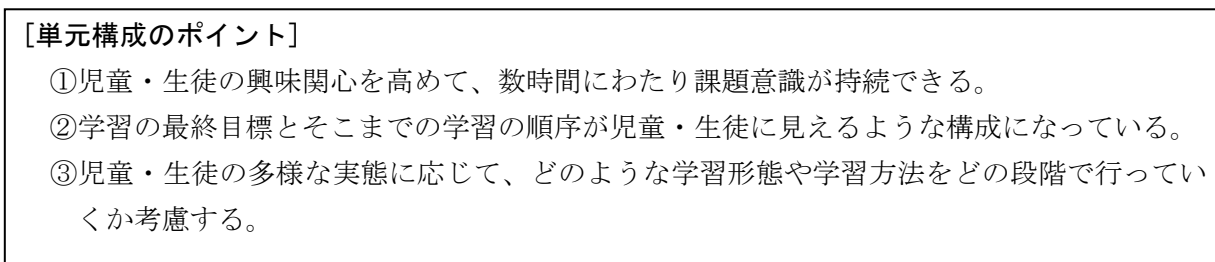
指導内容を効果的に指導するためには、指導の形態ごとに学習内容・活動を具体化し、指導時間、教材等を明らかにするとともに、併せて学習活動をどのような学習形態で行うかについて考えておくことが必要となります。

学習内容・活動によって効果的な学習形態・集団の構成を工夫することで指導を最適化した授業が可能となります。複数の子どもが授業に参加する場合は、一人一人の授業レベルの課題を「個別的な課題」、「共有できる課題」、「集団活動を生かす課題」等に分け、共通する課題をもつ子どもはグループ分けし、独自の目標をもつ子どもには個別指導が行える学習内容を設定します。また、指導体制は、学習形態に応じて最適なものになるように工夫します。



(6) 単元の構成

単元の目標を達成するために、児童・生徒の実態からどのように学習内容・活動を配置し、どのような手だてを講じて、単元全体を展開するのかを構想します。下に単元構成のポイントと単元構成の例を示しました。



(7) 指導計画

指導計画は、単元の指導内容の順序を決め、授業の流れに沿って配列し、それぞれの内容や時間毎のねらいを明示します。

[指導計画例「生活単元学習」]		(全 36 時間)	
時間	学習活動	支援及び留意点	評価規準
1	1. 学習計画を立てる ・ 昨年の宿泊学習について話す ・ 今年の宿泊学習について話す ・ 学習の計画を立てる	・ 昨年度の宿泊学習のことを想起できるように、ビデオやアルバムを見たり、初めて参加する友達に様子を話したりする。特にA児には絵を見ながら楽しい活動であることを知らせる	・ 行き先や日程が言える ・ 活動内容がだいたい言える
6	2. 宿泊学習の内容を知る ・ 宿泊施設の場所を調べる ・ 宿泊施設までの行き方を調べる ・ 日程表作りをする ・ 登山コースなどを調べる	・ 地図を使って方向や歩いていく道、電車に乗る駅や降りる駅を確認する ・ 電車に乗るときや歩くときの注意を再確認する ・ 分かりやすいようにしおりの絵を使って日程表を作る ・ しおりの見方を確認して、日程表に記入して、自分の動きが分かるようにする	・ 施設への行き方、電車の乗り方やマナーを学習カードにまとめられる ・ 生活のあらましが言え、日程表を作ることができる

指導計画には、以下のようなタイプがあり、それぞれの利点を生かし効果的に指導が行えるように計画を立てます。

[指導計画のタイプ]

- プロジェクト展開型指導計画 (例:「豆まき大会をしよう」)
「計画→準備→実施→整理」という順序を追って指導が展開されるもの
- 経験並列型指導計画 (例:「空気で遊ぼう」)
あるテーマを中心にいろいろな活動を経験させるために設定される指導計画
- 累加型指導計画
指導内容を一つずつ増やしながら単元・題材の指導が展開されるもの
- 製作過程型指導計画 (例:「栽培学習」「焼き物を作ろう」)
製作・生産の流れに従って単元・題材の指導が計画されるもの
- 段階的形成型指導計画 (例: 国語や算数・数学科、体育などの教科)
特定の知識や技能を段階的に形成するよう設定された指導計画

(8) 評価

単元の指導計画に盛り込まれる「評価の観点と方法」は、一般的に単元や題材の終了時に行われる総括的な評価が想定されています。しかし、個別の指導計画に基づいた単元・題材の指導では、小単元毎・毎時間に設定した到達目標に基づいた、形成的な評価を単元・題材指導計画に位置づけ、効果的に指導を展開することが大切です。具体的には、目標に対応した評価の観点を決め、観点ごとに評価規準を設けて評価の場面、評価方法と合わせて示します。

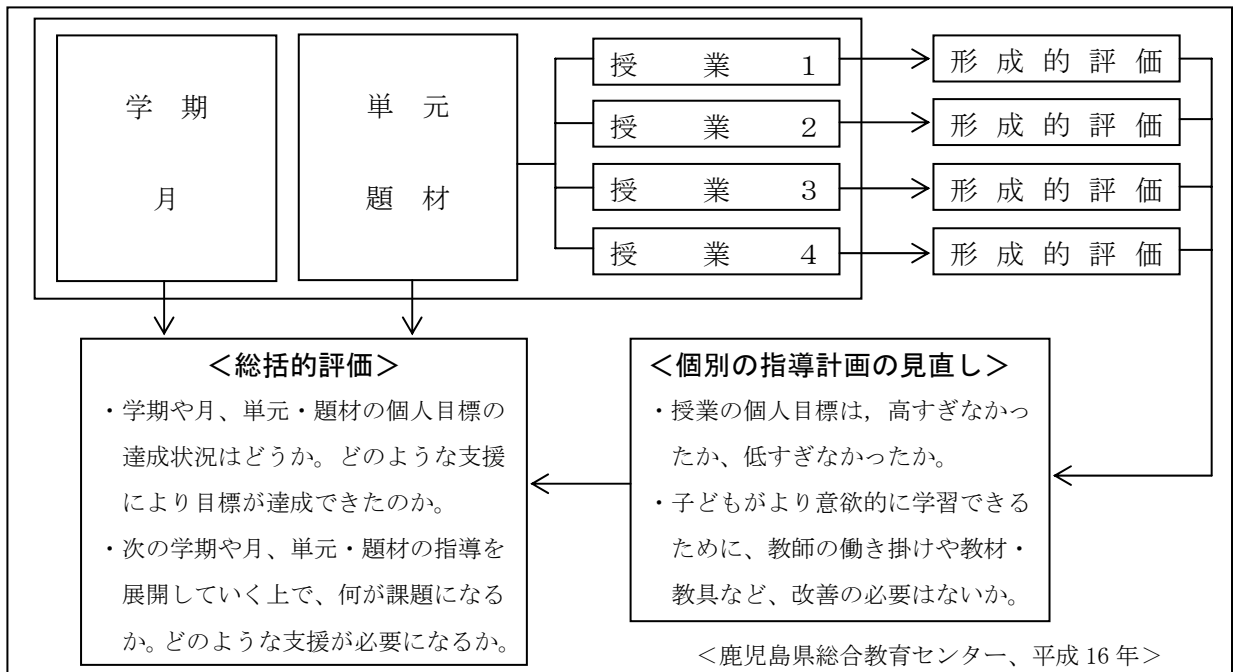
【総括的評価の観点の例】

- ①各教科・領域等の目標を踏まえた観点
- ②学校の定める目標、内容に基づく観点
- ③単元の指導目標に基づく観点

【形成的評価の進め方の例】

- ①授業中の児童生徒の様子を観察し、学習の到達度や意欲・努力を認め、学習の意欲を向上させる
- ②学習の到達度について指導者間で情報交換し、客観的に明らかにすると共に、さらに意欲的に取り組むことができるように学習活動や手だての工夫を検討する
- ③指導記録に目標の達成記録や活動の記録を記入しておき、単元・題材終了後の総括的評価のためのデータをそろえておくと共に、次時の授業改善に努める

下図は、形成的評価を重視した評価の進め方を示したものです。



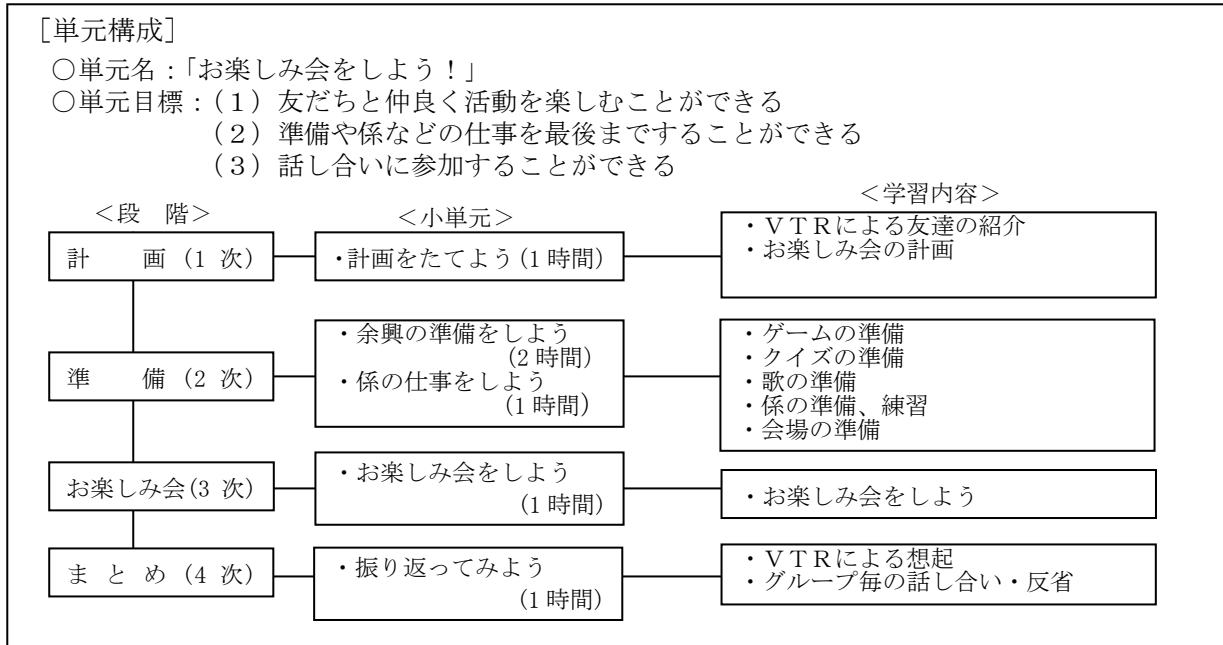
＜閑話休題＞

【すぐれた授業の条件】

- 1 何を学習するのか、どのような活動をするのかを児童生徒が理解できている
 - 2 どのように学習するのかその方法を児童生徒が理解できている
 - 3 一単位時間中に少しでも長い時間、課題に集中して取り組む姿勢が児童生徒に見られる
- 阿部芳久著「障害児教育授業の設計」(日本文化科学社)より

2 単元・指導計画作成例

1 単元構成



児童・生徒の興味関心を引きつける単元名、見通しをもてるような単元名をつけます。平易な表現に気をつけます。

2 単元名 「お楽しみ会をしよう ～ともだちになろう～」

3 単元設定の理由

(1) 児童について

本単元の対象児童は、小学校男子○名、女子○名、○○学級○年生(男子○名、女子○名)、○年生(男子○名、女子○名)の計○○名である。これらの児童は入所・入院している。

本単元にかかわる児童の実態について書きます。これまでの学習を振り返ったり、事前に調査したりなどをして書くこともあります。

児童の姿や目指す姿について記述する必要があります。

男子○名、女子○名、○○学級○年生(男子○名、女子○名)の計○○名である。これらの児童は入所・入院している。

通常・特別学級の児童の学習や集団参加の様子を見ると、学習や集団活動に参加できるまで時間を要する児童、周囲に合わせられずに自分勝手な行動をする児童、自分の考えや気持ちをうまく伝えられずに直接的な行動を取る児童、見通しを持って学習や集団活動に取り組むのが難しい児童などがみられる。

しかし、学級活動やこれまで継続して取り組んできた「ともだち集会」、また、運動会等の行事などの集団活動を経験することによって、徐々に友だちと協力して活動する楽しさや友だちの良さを認められるようになってきている。

分教室の児童とのかかわりについては、「ともだち集会」や学部行事の時間に分教室の児童が参加しており、短時間ではあるがお互いのふれあいの時間となっている。その際の児童の様子を見る

と、自分からあいさつをしたり、車イスを押してあげたりするなど、分教室の児童にはやさしくしなければならぬという意識がみられる。反面、継続してかかわることが少なかったり、どのようにかかわっていけば良いのか分からないという様子が見られる。

〇〇教室の児童は、気管切開をしたり人工呼吸器を使用しており常時医療的ケアが必要なため、ベッドサイドでの学習を主としているが、本年度は〇名全員が学校に看護師が派遣される医療的ケアの対象となり、体調に応じて週1～3回登校して本校舎で学習している。

このうち〇名は時々「ともだち集会」に参加し、集団の中での友だちとのかかわりや歌・ゲームを楽しみにするようになってきている。残り1名もビデオや写真を通して「ともだち集会」や学部集会の様子を見、小学部の友だちと一緒に学習に参加したり一緒に活動を楽しみたいという希望を持っている。

自分の目で捉えた単元の特徴を書きます。教材としての意味や学習を進める上での中心となる事柄を記します。また、この単元で児童・生徒がどのような力をつけられたいのかを書きます。

(2) 単元について

本単元は、時々「ともだち集会」に参加している分教室の児童とふれあい、交流を深めることを目的に設定した。

本単元では、児童を3つのグループに分けてそれぞれのグループに分教室の児童が入ることとした。

グループ毎に会の準備をしたり、みんなで歌の練習をすること、そして、集会活動を行うことを通して、お互いの良さに気づき、集団への所属感や連帯感を高め、児童相互のかかわりを深めることができるものと考えた。また、司会やゲームの進行、クイズの出題係、歌の係など児童一人一人が何らかの係を分担することとした。併せて、計画や係分担当の発表したり、聞いたりすることとした。

〈教材観〉と〈児童観〉をもとに、指導のポイントを記します。どんな指導が有効と考えているのか、対策を箇条書きにすると明確になるだけでなく、参観者へのガイドとしての意味をもつものにもなります。

(3) 指導にあたって

見通しを持ちながら楽しく活動できるように、これまで経験している「ともだち集会」と同じグループで活動をすすめる。

事前の準備では、分教室の児童が各グループに入りお互いがかかわれる時間を確保する。

グループ活動の場面では、できるだけ児童の意見が反映されるようにリーダーを中心とした活動とする。自分の考えや意志をうまく表現できない児童については、できるだけ自分自身で表現できるように児童に合わせた支援を行っていく。また、相手を思いやることができるように支援していく。

〈教材・教具の工夫〉

- ・プログラムを張り出すことでおおまかな見通しを持たせるようにする。
- ・〇×クイズでは、正解者にシールを上げることで達成感を与える。
- ・〇と×の場所を決め移動することで児童に分かりやすく楽しく取り組めるようにする。
- ・イス取りゲームでは、誰にでも勝つチャンスがあるように座った積み木の絵と札に書かれた絵とのマッチングとする。

〈場の設定〉

- ・ともだち集会のグループ毎に並び、グループの一員として分教室の児童が入るようにする。

〈働きかけ〉

- ・意欲的に学習に取り組めるように、必要に応じて賞賛や励ましを行う。
- ・教師の支援・援助は最小限にして、できるだけ児童が自分から活動できるようにする。

3 単元の目標

- (1) 友だちと仲良く活動を楽しむことができる
- (2) 準備や係などの仕事を最後まですることができる
- (3) 話し合いに参加することができる

本単元（題材）で扱う内容に関する個々の児童生徒の実態を、項目をあげて表で分かりやすく示す。
 ※本指導資料では、学習活動や支援を工夫する際に必要となる主な実態のみをあげている。

4 児童の実態と個人目標

氏名 (学年)	児童の実態	個人目標	主な支援
A (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・集団で行う活動にも落ち着いて参加できるようになってきた。 ・係の仕事は、気分によ左右されることがある ・自分の意見をみんなの前で話すことを恥ずかしがる 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもち楽しく活動に参加することができる ・司会の仕事最後まで行うことができる ・メモを見て話すことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって活動できるように活動内容を予め確認し、声かけを行う ・練習を行い、徐々に支援を減らしていく ・感想を予めメモにまとめておく
B			

「全体」と「個別」のねらい、「個別」のねらいと「評価規準」のつながりが見えるようにする。

5 指導計画(全6時間)

次	題材	主な学習内容	時間	支援の手だて	評価規準
1	計画をたてよう	<ul style="list-style-type: none"> ・VTRによる友達の紹介 ・お楽しみ会の計画 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟の友達と交流することを意識できるようにビデオレターを使い紹介する ・計画をたてやすいように「ともだち集会」のプログラムを例示する 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の名前を言うことができたか ・活動計画を発表することができたか
2	準備をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの準備 ・クイズの準備 ・歌の準備 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーを中心にグループ毎で準備する 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割を最後までやり遂げたか
	係の仕事しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・係の準備、練習 ・会場の準備 	1	(略)	(略)

個に応じた指導が展開できるように、個々の児童生徒の発達の状況や特性等の実態に配慮した学習活動と、その支援を個別に分かりやすく記述する。
 「支援」は、児童生徒の活動に対して教師が何をするのかを具体的に記述する。

【主な引用・参考文献】

「初任者研修の手引き」

岩手県教育委員会

「特殊学級担任 研修ブック（「生きる力」をはぐくむために）」

岩手県立総合教育センター特別支援教育室

「障害のある児童・生徒のための個別指導計画Q&A（改訂版）」（平成 11 年 9 月）

東京都教育庁指導部心身障害教育指導課

「個別の指導計画に基づく授業の在り方に関する研究」（平成 16 年）

鹿児島県総合教育センター